



川内小学校だより

ゆずり葉

第6号 令和8年9月1日



先行き不透明な時代を切り開く子どもたちに！

2学期がスタートしました。この夏は、気象庁が新たに定めた「酷暑日」の気温40度以上を記録した所もあり、これからの地球は一体どうなってしまうのだろうか？と本当に心配になりました。今、時代は異常気象はもちろん、大地震等の未曾有の自然災害、今まで予期しなかった出来事が次々と起こっています。この先行き不透明な時代を切り開くためには、これからの子どもたちにどのような力をつけることが必要なのでしょう？今回は、子どもたちに今求められている力について考えていきたいと思います。

人を喜ばせる「サプライズ」

2学期の始業式では、こんな話をしました。

～ 前 略 ～

この夏休みですが、全国では7月28日に熊本県を中心に大きな地震がありました。みなさんもニュースで知っていると思います。多分、熊本では普通に2学期を始めることができない学校もあるかもしれません。何とか普通の学校生活に戻れるように、遠い群馬からですが祈っています。

早く元気になってほしい熊本ですが、熊本のゆるキャラは誰だか知っていますか。そうです。「くまモン」です。今日はその「くまモン」の生みの親である小山薫堂（こやま くんどう）さんのお話をしようと思います。

放送作家である薫堂さんは「サプライズ」について語っています。サプライズとは驚きです。薫堂さんのいうサプライズは、ただ、人を「わっ」と驚かすことではなく、「人を喜ばせるため」としています。つまり人を喜ばせるためにサプライズをいつも考えているそうです。薫堂さんは、他人の笑顔や驚く顔を引き出すことが自分自身のエネルギー源であり、ワクワクする人間関係や社会を築くための手段であると言っています。「サプライズこそが幸せをよぶ」とも言っています。

さて、この考えをこれから始まる2学期の学校生活に置き換えてみましょう。2学期は教室での勉強はもちろんのこと、運動会をはじめ、修学旅行や、校外学習、音楽学習発表会、持久走トライアルなどの多くの行事があります。そんな2学期にぜひ、みなさんが、友達や先生、お家の人をサプライズして喜ばせて笑顔にさせてください。

例えば、学校だと、言われる前に係の仕事を進めたり、誰も気づかない所の掃除を率先してしたり、さみしそうにしている友達に積極的に遊んであげて笑顔にしてあげたりするのです。お家では、突然、お家のお手伝いをするなんてこともサプライズでお家の人を笑顔にさせることになるかもしれませんね。そんな行動があちこちで現れると、自分も友達も先生も家族もみんな幸せになると思っています。

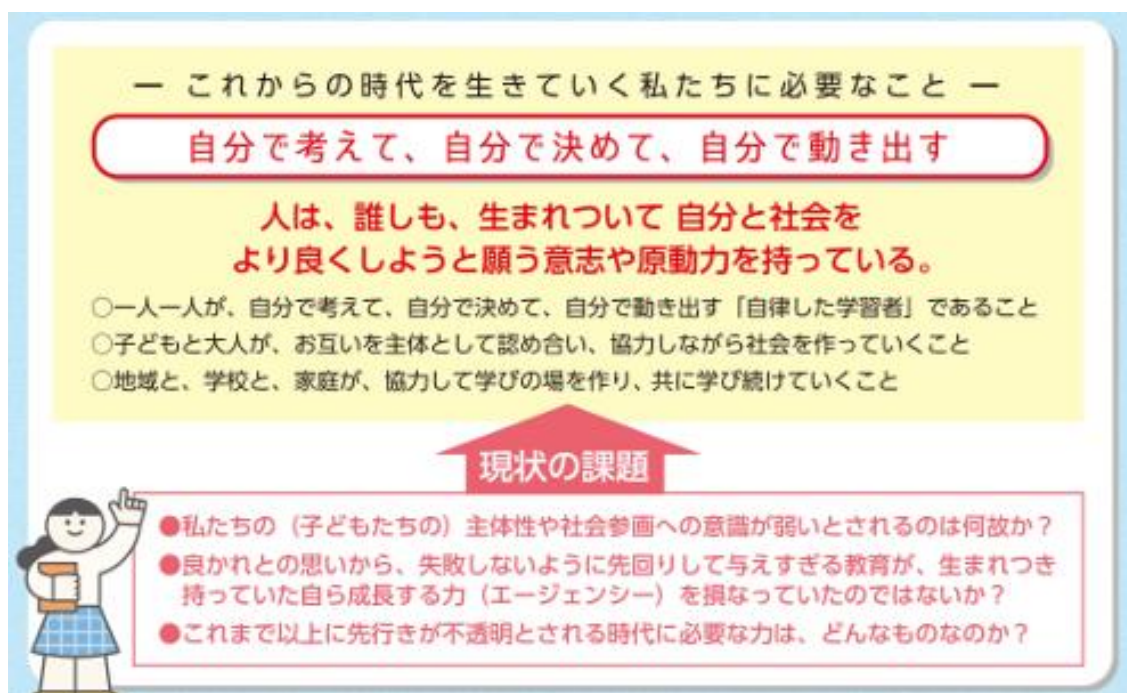
校長先生は、これらの毎日の生活や行事の中で皆さんがどんな活躍をみせてくれるか、とても楽しみにしています。

最後に6年生にお話しします。2学期はたくさんの行事が待っています。6年生にはそれぞれが小学校で過ごす最後の行事となります。川内小の顔としてリーダーシップを発揮するとともに、自ら下級生に「挨拶」や「返事」のお手本、そして団結力を示してください。

この2学期に最高の思い出がつかれるよう精一杯取り組んでくれることを心から期待しています。



これからの時代に求められる力とは・・・



上記の図は、群馬県教育委員会から出された「第4期 群馬県教育ビジョン」の一部です。自分自身の人生をどのようなものにしていくのかを選択し、決めていくのは、他でもない自分自身です。日々の生活や学びを通して、自分を知り、自分の強みや弱みを理解し、試行錯誤を重ねて、時には失敗しながらも、よりよい自分やよりよい社会を求めて生きています。

群馬県教育ビジョンでは児童のみなさんを「一方的に教えられ、守られるだけの子ども」とは考えません。みなさんそれぞれの年齢や状況に応じて、自分の頭で考え、判断し、行動できるようになるための力を身につけてほしいと願っています。

このような群馬県の方針を受けて、川内小学校においても、上記のような力が子どもたちに身につくように取り組んでいます。具体的には、暗記等の知識量重視の学習から、思考力・判断力を重視する学習への転換、多様な価値観を尊重し、みんなで協働して課題を解決していく学習の推進等です。

いよいよ2学期がスタートしますが、先生方は児童のみなさんの「やる気」を一番応援しています。「自分から進んで学ぶ心地よさ」をぜひ2学期に味わってもらい、一回りも二回りも成長してくれることを願っています。

川内地区の防災対策



7月28日(火)に本校の体育館等で、川内地区の避難所運営委員会を行いました。地域の区長さんや副区長さん(運営委員長)、各地区の町会長さん、市役所の川内地区担当の方々等で、災害があったときに川内地区の皆様の安全をどうやって守っていくか協議を行いました。

避難者の誘導、問い合わせ対応、避難所のレイアウト作成等、万が一災害が起こったときに右往左往しないように、大筋の役割分担や業務内容を話し合いました。また、体育館では防災備品を確認するとともに、災害時にも発電機や照明等が正しく作動するかどうかを確かめ合いました。災害時に、川内の住民の皆様を

守るために自ら考え、協議し、実行していく大変有意義な会となりました。